

感謝状

大竹道茂先生

あなたは拙著「トキジイと太郎杉」が出版されや否や超人気ブログ「江戸東京野菜通信」に取り上げてくださり、大きな反響をいただきました。

すでに大竹先生のご指導により私が書き上げた品川蕪の話、現在執筆中の「お稲の都留芋」の話を皮切りに江戸東京野菜にまつわる小説を書いて参りますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

平成28年9月15日

仲秋の名月

作家 千年太郎

昔は日本のあちこちでみられた鳥のトキと人間の交流を、実話とフィクションを交えて描いた物語です。



←中日新聞 6月26日号



トキジイと太郎杉

朝日小学生新聞本日号→

2016年9月15日 木曜日 (平成28年)

鳥と人間の交流描く

山形県の田舎、梅口村には樹齢千年の立派な太郎杉があり、村人たちに愛されている。トキの「トキジイ」がすんでいます。村に住む女の子「ひな」は、水不足で作物が育たず、貧しい村を救うために、山の

情報コーナー

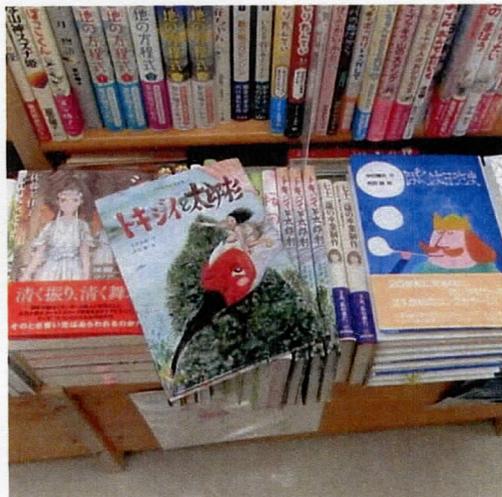
★ 本『トキジイと太郎杉』を10人に

山形県の小さな村、梅口村（現小国町）にそびえる樹齢千年の太郎杉。村の水不足を救うために、太郎杉を切るべきか切らざるべきか――。太郎杉にすむトキのトキジイと、村娘ひなの心の交流を書いた本『トキジイと太郎杉』（文 千年太郎、絵 早田優、1404円）＝写真＝が絵本塾出版から発売中です。私たちにめぐみを与える自然と、どうつき合うのかも考えさせられる一冊です。この本を、抽選で読者10人に。★ ネコ柄のボールペンを6人に

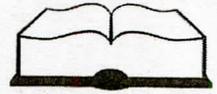
り倒し、売ったお金でトンネル掘りは始まります。すみか



てしまつのか。トキは日本では絶滅してしまいましたが、今は中国から贈られたつがいから繁殖を続けています。そんなトキに思いをはせられる一冊です。（文・千年太郎、絵・早田優、絵本塾出版、税別千三百円）



江戸東京野菜通信 5月29日号 原画がどこに展示しているのかわからず、とりあえず児童書を売っている8階にエレベーターで上がった。



『トキジイと太郎杉』

千年太郎 著 早田 優 絵

定価 1300円+税
絵本塾出版刊

物語の舞台は、明治時代の樽口

村（現在の山形県西置賜郡小国町樽口）。わずか十軒ほどの小さな村は山奥にあり、低い所を流れる川の水を田んぼの中へと引くことができない。そのため村の人々は、いつも総出で重労働の水くみに汗を流していた。しかし、それほど苦心を重ねても常に日照りによる凶作の危険にさらされ、つらい暮らしを余儀なくされていた。

主人公の「ひな」は7歳の女の子。毎日、水くみに励みながら、皆が豊かで幸せに暮らせる方法はないかと考えている。ある日、ひなは、長寿で聡明な老いた朱鷺の「トキジイ」に出会う。人の言葉

を理解するトキジイは、ひなに村を救う智慧を授ける。すなわち村の裏側にそびえる山にずい道（トンネル）を掘り、灌漑用水路をして、枯れることのない「日蔭沢」から水を引いてくる大計画だ。

村を救うため家を出たひなは、さまざまな出会いの末に金ほり職人（鉾山技師）と出会い、やがて樽口村へと戻ってくる。ところが、ずい道を掘るには800円（現在の価値で約1600万円）もの費用がかかる。村の人々には、とてもそんな大金は出せない。唯一の方法は、樹齢千年に及ぶ「太郎杉」を切り倒してお金にかえる方法だった。

さて、村を救うため、村民の誇りであり、動物たちの憩いの場でもある太郎杉を切つてよいものかどうか――。

史実をモチーフにした創作童話には、樽口出身の著者の郷土愛がみずみずしく息づいていて、作品の中へ自然に引き込まれていく。また、ひなの健気さや村人たちの助け合いの心など、本来だれもが持っている人間の強さや心の美しさといった精神的価値が、しっかり作品の中に描かれていることにも心を打たれる。さらに、ぬくもりを感じさせるイラストも魅力的だ。子どもの感受性を育むきっかけとなる一書である。